

青森の工芸品



青森県の伝統工芸品「津軽塗」は、津軽地方に江戸時代から伝わる、堅く優美な外見を持つ塗物です。代表的な技法の1つである唐塗は、4、8もの長い工程を経て完成されます。「津軽塗」は、青森県で唯一、国の伝統的工芸品に指定されており、平成29年には本県初の重要無形文化財として指定されました。(漆芸分野での指定は、人間国宝を除くと輪島塗(石川県)に次いで2例目です。)

「ブナコ」は、ブナを薄いテープ状に加工し、巻き重ねて形を作る工芸品です。美しい立体曲線を自在に表現でき、木材を無駄なく使うことができます。現在では、食器だけではなく、ランプやスピーカーなど、デザイン性の高いインテリア製品にも定評があり、宿泊・飲食施設などにも使用されています。

「南部菱刺し」は、江戸時代に南部地方で生み出された工芸品です。当時、農村の女性たちは補強と保温のため、麻に木綿糸を刺して、厳しい北国の生活をしのいできました。偶数の目を拾って織り成される、横に長い菱型の幾何学模様が特徴であり、現在では、ネクタイやタペストリーなど新たな製品にもその技術が応用されています。



つがるぬり
津軽塗



ブナコ



なんぶひしざ
南部菱刺し

資料：県地域企業支援課

2026 国スポ・障スポ開催!



国民スポーツ大会(国スポ)は都道府県対抗で毎年開催される国内最大のスポーツの祭典です。本県での開催は、前回のあすなる国体以来49年ぶりとなります。

あすなる国体は、冬季大会と本大会を同じ県で開催する初の「完全国体」でしたが、2026年開催の「青の煌めきあおもり国スポ」も、「完全国スポ」として、初めての開催となります。

また、同じ年には全国障害者スポーツ大会(障スポ)も初めて開催されます。みんなで一緒に盛り上げましょう。

※2024年から「国民体育大会」(国体)の名称が、「国民スポーツ大会」(国スポ)へと変わりました。

実施競技数

競技は、青森県内のすべての市町村で行われます。

国スポ

・正式競技(都道府県対抗)	本大会	37競技
・正式競技(都道府県対抗)	冬季大会	3競技
・特別競技(高等学校野球)	本大会	1競技
・公開競技(競技の普及等)	本大会	7競技
・デモンストレーションスポーツ (主に県民が参加対象の競技)	本大会	39競技

障スポ

・正式競技(都道府県対抗)	14競技
・オープン競技 (県内外の障がいのある選手対象)	3競技

公式マスコット 「アップリート君」



特徴ある県の形と、ハチマキの中央にある「りんご」で青森県を表現しています。

大会の愛称

青の煌めきあおもり国スポ・障スポ

青い空、青い海や湖、青い山並みなど美しく豊かな自然に恵まれた青森県で、あおもり国スポ・障スポに参加する全ての人々が、交流を深め、感動を創出し、いきいきと煌めくような大会を目指します。

大会のスローガン

翔ける未来へ縄文の風に乗って

縄文時代の遺跡が数多く存在する青森から、新たな歴史と感動を全国に向けて発信し、未来につなげていきたいという願いを込めています。

大会の会期

国スポ冬季大会	2026年 1月31日(土) ~ 2月17日(火)
国スポ本大会	2026年10月10日(土) ~ 10月20日(火)
障スポ	2026年10月23日(金) ~ 10月26日(月)

青の煌めき
あおもり
国スポ・障スポ



世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」



「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、1 万年以上もの間、狩りや漁、木の実などを採集しながら、ひとつの場所にとどまって生活(定住)した人々の暮らしやいのり・祭りの様子を伝える文化遺産で、2021年7月27日に世界遺産となりました。北海道・青森県・岩手県・秋田県にある17の遺跡で構成され、青森県には三内丸山遺跡をはじめとした8つの遺跡があります。

縄文時代は今から約1万5千年前に始まり、稲作が伝わる約2千4百年前まで1万年以上続きました。人々は、縄で模様を付けた土器や石器を使い、木の実や動物、魚や貝などを食べて暮らしていました。

自然に感謝し、自然と共に生きる縄文時代の暮らしには、現代に生きる私たちが学ぶべきことがたくさんあります。人類共通の宝として、世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」を私たちの手で守り、未来へ伝えていきましょう！

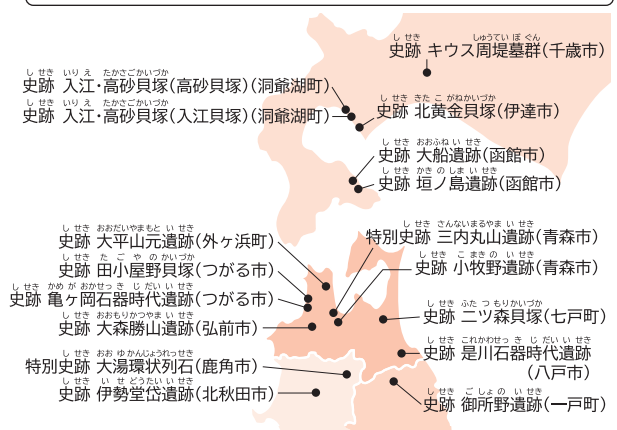


さんないまるやま い せき
三内丸山遺跡

じょうもん い せきぐん
縄文遺跡群
ロゴマーク



世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群



サンマルタンケンタイ

「さんまる」がさんないまるやま い せき 三内丸山遺跡をしょうかい 紹介する

キッズ向けサイト

JOMON ぐるぐる

北海道・北東北の縄文遺跡群

キッズサイト

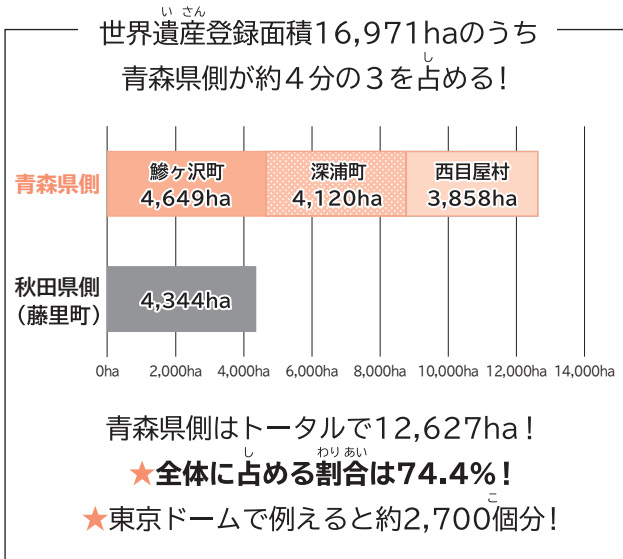
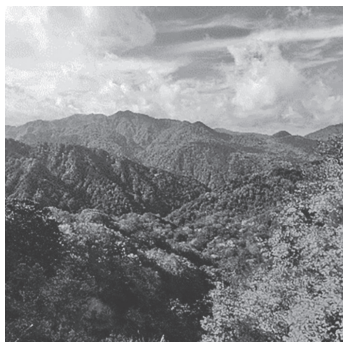
資料：三内丸山遺跡センター

日本初の世界自然遺産 白神山地



白神山地は、青森県と秋田県にまたがる約13万haにおよぶ広大な山岳地帯で、このうち人の影響をほとんど受けていない原生的なブナ林で占められている約1万7,000haのエリアが、1993年(平成5年)、日本初の世界自然遺産として、屋久島とともに登録され、2023年(令和5年)には登録30周年を迎えました。日本国内の自然遺産は、「白神山地」、「屋久島」、「知床」、「小笠原諸島」、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の5件だけです。

白神山地は都市から遠く離れ、険しい地形で囲まれていることが幸いし、自然の生態系が守られてきました。そのため、ブナを中心にイヌワシ、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、アオモリマンテマなど、多種多様な動植物が暮らす生き物たちの楽園となっています。



白神山地では、星空が美しく見えます。星空が美しく見えるのは、白神山地の山並みが都市部の光を遮り、星が見えにくくなる原因となる人工の光が届きにくいからです。白神山地のある深浦町の星空は、過去に実施された「全国星空継続観察」で日本一に輝いたこともあります。ぜひ一度ご覧ください。

大地から学ぼう!ジオパーク



「ジオパーク」とは、変動し続ける自然や地球と人々の関わりを学ぶ場所、また持続可能な地域を目指す取組のことです。青森県には2つのジオパークがあります。

日本最大!「三陸ジオパーク」

三陸ジオパークは、八戸市から宮城県気仙沼市までの南北約220kmに及ぶ日本最大のジオパークです。県内の代表的なサイト(見どころ)として、国の天然記念物にも指定されており、国内で唯一、ウミネコの子育てを間近で見ることができる「燕島」や、海水面の隆起などによってできた海成段丘と、海沿いの険しい岩礁とのコントラストが美しい「種差天然芝生地」などがあります。

かぶしま
燕島 (八戸市)



三陸ジオパーク



本州最北!「下北ジオパーク」

下北ジオパークは、特徴が異なる3つの海に囲まれた下北地域の5市町村にまたがる本州最北のジオパークです。現在も続く火山活動によってできた景観が特徴的な「恐山」や、海岸沿いに連なる白緑色の奇岩・巨岩が神秘的な「仏ヶ浦」などのサイトがあります。2024年の夏には、青森県内で初開催となる「第14回日本ジオパーク全国大会下北大会」が行われ、全国から集まった方々が参加し、下北の自然・食・文化を満喫しました。

ほとけがうら
仏ヶ浦 (佐井村)



下北ジオパーク



ジオパークで、私たち人間が未来に向けてできることを考えてみませんか。

ピカイチ！青森の木



弘前公園三の丸、緑の相談所中庭にあるソメイヨシノは、幹の周りが5m82cmで、環境省の「巨樹・巨木林データベース」によると単幹のソメイヨシノでは日本一の太さです！

弘前公園は、ソメイヨシノを中心に弘前発祥の八重桜「弘前雪明かり」の原木など52品種約2,600本の桜が植えられ、桜の名所として親しまれています。また、弘前公園のソメイヨシノは、1つの花芽(花を咲かせる芽)から時には7個と多くの花を咲かせるため、豪華で迫力のある美しい風景が楽しめます。



昭和41年に県の木として指定された青森ヒバは、木曽ヒノキ、秋田スギとともに日本三大美林の一つに数えられ、全国の蓄積量の8割以上が青森県にあります。

シロアリや腐りに強いことから、古くから城や神社仏閣などに使用され、弘前城天守をはじめ数多くの建造物に用いられています。

世界自然遺産の白神山地等に生育するブナは蓄積量が全国1位、主に住宅部材に使われるスギ人工林の面積が全国4位のほか、県南地域には南部アカマツが広く分布するなど、青森県の名前が示すとおり、多種多様な森林が県土面積の66%を占めています。

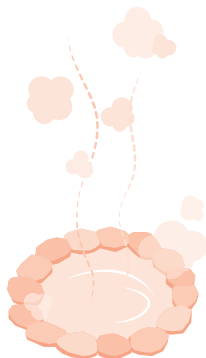
温泉いっぱい ん～幸せ!



環境省の温泉利用状況(令和4年度末現在)によると、青森県は温泉地数が全国第5位、湧出量は全国第4位の温泉の宝庫!

また、青森県の一般公衆浴場数は266ヶ所(令和5年度末現在)で、全国第3位!人口10万人当たりでは23.0ヶ所(令和3年度)とダントツの全国第1位!なんと全国平均の9.2倍です。しかも、青森県の一般公衆浴場のうち約8割が温泉を利用したものです。

さらに、令和5年家計調査(家計収支編・二人以上の世帯)によると、青森の「温泉・銭湯入浴料購入金額」(1世帯当たり)が全国第1位で、青森県民は温泉が大好きなことが分かります。



温泉地数 (か所)

1位	北海道	230
2位	長野県	194
3位	新潟県	142
4位	福島県	127
5位	青森県	125

湧出量 (㎥/分)

1位	大分県	295,708
2位	北海道	196,262
3位	鹿児島県	175,145
4位	青森県	138,559
5位	熊本県	129,962

※温泉地…温泉を提供する宿泊施設を有する場所。日帰り温泉施設のみの場所は含まない。

混浴の大浴場『ヒバ千人風呂』で有名な国民保養温泉地第1号にも指定された「酸ヶ湯温泉」(青森市)、幻想的なランプの灯りの中で入浴を楽しめる「青荷温泉」(黒石市)、波打ち際に露天風呂がある絶景の「黄金崎不老心死温泉」(深浦町)、真っ黒なお湯がめずらしい「東北温泉」(東北町)、2つの系統の温泉を楽しめる「下風呂温泉海峡の湯」(風間浦村)など県内には個性的な温泉がたくさんあります。

※国民保養温泉地…環境省が指定した、温泉利用の効果が十分期待され、かつ健全な温泉地として優れている地域のこと。

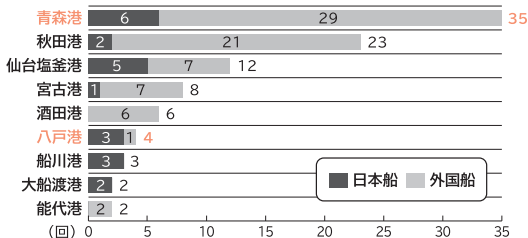
世界から選ばれる青森へ



東北No.1! 豪華クルーズ船が続々入港

青森県には、クルーズ客船が寄港できる港が4港(青森港、八戸港、大湊港、津軽港)あり、中でも青森港には多くのクルーズ客船が寄港しています。令和5年の寄港数は、青森港が過去最多の35回、八戸港が4回、県全体では39回となりました。青森港の寄港数は、東北では1位となっており、日本船よりも外国船の方が多く寄港しています。

東北地方港湾別クルーズ船寄港数(令和5年)

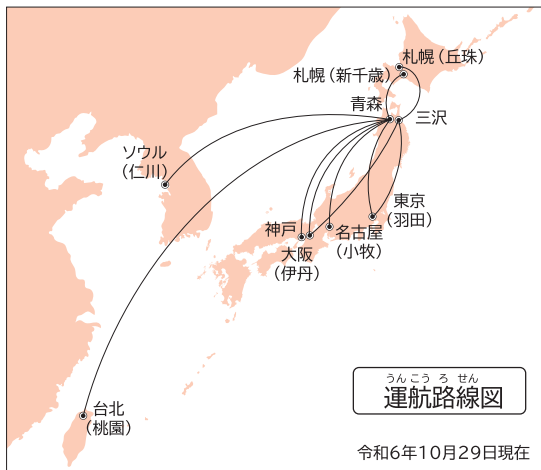


新中央埠頭に停泊するクイーン・エリザベス



世界へ羽ばたけ! 青森の観光戦略

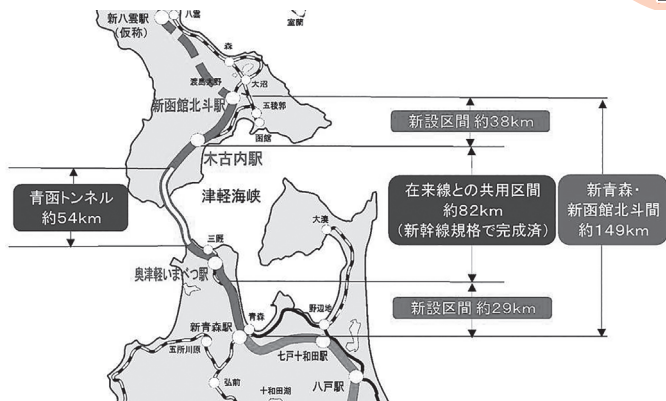
青森県には空の玄関口として青森空港、三沢空港があります。そのうち青森空港では2024年1月に青森・ソウル線、同年10月に青森・台北線の運航が再開し、海外との多様な分野での交流や地域経済の発展が期待されています。



青森県では、りんごをはじめ多種多様な農林水産品、白神山・縄文遺跡群の2つの世界遺産、本県ならではの祭りなど多くの強みを活かして、「世界から選ばれる青森」を目指します。

資料: 県港湾空港課、県観光政策課、県誘客交流課

鉄道のピカイチ集めました!



東北新幹線は、2020年12月4日に、全線開業から10周年を迎えました。

2020年10月からは、盛岡～新青森間の最高速度を260km/hから現在国内最速の320km/hに向上させるための工事が進められています。

さらに、仙台～新青森間では、これを超える360km/hでの営業運転を目標に、次世代新幹線(ALFA-X)の試験運転が行われています。このほかにも、鉄道には様々な「ピカイチ」がありますので、いくつか紹介します。

最高速度320km/h! 日本一の高速新幹線車両(E5系・H5系)「はやぶさ」



北海道・東北新幹線の車両E5・H5系「はやぶさ」は、最高速度320km/hで日本一の高速新幹線車両です。また、この車両は国内新幹線初となるファーストクラス座席「グランクラス」が導入されたことでも話題になりました。

延長713.7km! 日本一の長い路線! 「東京～新青森間」

東北新幹線は、全線開業後、東京～新青森間の営業キロが713.7kmとなり、在来線も含めた中で日本最長の路線に! これまでの山陰本線(営業キロ673.8km)に代わり、日本一になりました。

全長26.455km！世界一の複線陸上鉄道トンネル「八甲田トンネル」

「八甲田トンネル」は全長26.455kmと、上下線が通る複線トンネルでは世界一長い陸上鉄道トンネルです。青森県中央部の八甲田山系の北端に位置し、八戸駅から新青森駅までの距離(81.8km)の約3分の1を占めます。



橋脚間隔150m！日本一広い橋脚間隔の新幹線鉄道橋「三内丸山架道橋」



三内丸山遺跡に近い国道7号青森環状道路をまたぐ「三内丸山架道橋」は、橋長450mのエクストラドーズ橋。橋桁を支える橋脚と橋脚の間隔は最大で150mもあり、新幹線の鉄道橋で日本一広い間隔です。

全長53.85km！世界一長い海底鉄道トンネル「青函トンネル」

津軽海峡の海面下240mの海底で北海道と結ばれる「青函トンネル」は、全長53.85kmで、海底を通る鉄道トンネルの中では世界一の長さを誇ります。当時の日本の最新技術を駆使し、昭和63年(1988年)3月に開通しました。その技術は、英仏海峡トンネル(全長50.49km)でも活用されています。

また、年末年始、ゴールデンウィーク、お盆の時期には、青函トンネル内を走る新幹線の最高速度を160km/hから260km/hに引き上げて営業運転されるなど、北海道新幹線の更なるスピードアップに向けた取組が進められています。



イチおしミニあらかると 第3セクター鉄道「青い森鉄道」にもピカイチ！

東北新幹線の開業に伴いJ R東日本から経営分離され誕生した「青い森鉄道」は、現在目時・青森間121.9kmを上下分離方式(※)で運営されており、日本一長い並行在来線です。

また、青い森鉄道野辺地駅には、日本最古の防雪林があります。

※青い森鉄道では、県が線路や駅舎等の施設(「下」の部分)を、第3セクター鉄道会社が電車(「上」の部分)を所有し運営する上下分離方式を第3セクター鉄道としては日本で初めて採用しました。